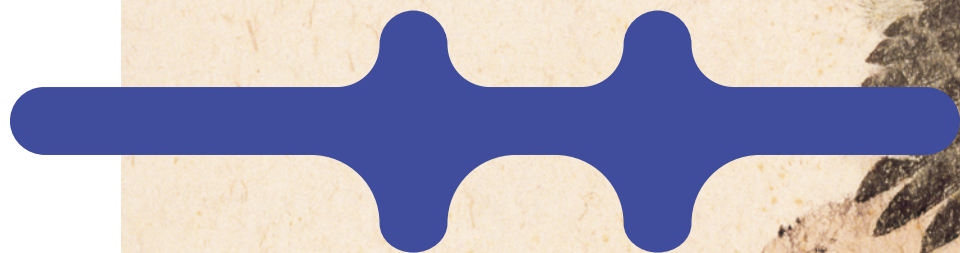


2019
9/14 SAT. 土

— 11/4 MON. 月

THE HERMIT PAINTER
BORN IN NIKKO.
KOSUGI HOAN

放菴



日光生まれの
仙人画家 **小杉放菴**

反俗・脱俗・超俗!



鳥の何気ないしぐさを切り取る
小杉放菴 閑庭 1950・60年代



KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館

石に腰掛け、仙境を眺める
小杉放菴 白雲幽石図(部分) 1933(昭和8)年頃

「主催」公益財団法人小杉放菴記念日光美術館、日光市、日光市教育委員会

「休館日」毎週月曜日(祝日・振替休日は開館し、その翌日を休館)

「開館時間」9時30分～17時(入館は16時30分まで)

「入館料」一般720(640)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料

※10月1日以降、消費税の改訂等に伴い、入館料が変更になる場合があります。

※()内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方と
その付き添いの方1名は無料

※第3日曜日「家庭の日」(9月15日、10月20日)は、大学生は無料

反俗・脱俗・超俗!

小杉放菴 (1881-1964) は、日光出身の近代日本を代表する画家です。幼い頃から絵画に親しみ、15歳で日光在住の洋画家・五百城文哉いおきぶんさいに師事したのち、18歳で上京、小山正太郎こやませいじろうの画塾・不同舎ふどうしゃに入門します。「未醒」と号し、太平洋画会展や文部省美術展覧会（文展）に出品を重ね、30歳のときに文展で最高賞を受賞。翌々年に洋画研究のために渡欧したものの、パリで池大雅の《十便図》の複製を偶然目にすることがきっかけとなり、東洋的画題に開眼します。

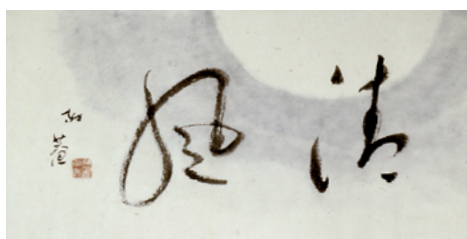
帰国後は、再興日本美術院の洋画部を牽引し、東洋的要素を加えた新しい洋画の制作を試みます。さらに、44歳のときには東京大学安田講堂の壁画を手がけ、名実ともに洋画壇の巨頭と目されました。1930年代以降は、「放菴（放庵）」と号を改め、日本画の制作に次第に軸足を移すようになります。

このように、洋画・日本画で独自の境地を開いた放菴ですが、終戦後は東京を離れ、疎開先であった新潟・妙高高原に亡くなるまで過ごします。美術蒐集家としても知られる細川護立ほそがわもりたつが、戦後に「放菴は赤倉に入って仙人になってしまった」と述べたように、これまで務めた展覧会の審査員や、日本芸術院会員などを辞し、一切の名誉から離れた生活を送ったのです。

しかし、この妙高高原での生活は、彼の制作活動をより豊かにさせました。絵画のみならず、これまでも手がけていた書や和歌を精力的に制作するようになります。その独特の書体と飾り気のない句調は、今もなお、見る者の胸を打ちます。

洋画壇の頂点まで登りつめた画家が、どのようにして「仙人」へと変化したのか。本展は、当館が所蔵する絵画・書・和歌を一堂に会することにより、仙人画家・小杉放菴の全貌に迫ります。

また、本展は、100年ぶりに発見された未醒時代の大作《煉丹》れんたんを公開する初の機会となります。どうぞご期待ください。



書と画で秋の夜長を愉しむ
小杉放菴 清風 1950-60年代

100年ぶりの発見!

初個展の大作

1917(大正6)年
小杉未醒 煉丹



外国人に愛された日光の風景を精緻に描く
小杉未醒 東照宮・陽明門と鼓樓 1900年代



中国のものがたりを題材とした「あたらしい」洋画
小杉未醒 飲馬 1914(大正3)年



洋画家の頂点を極めた壁画の習作
小杉未醒 泉(断片)(部分) 1925(大正14)年頃

EVENT

【会期中のイベント】要入館料／予約不要

01. Gallery talk

担当学芸員によるギャラリートーク

日時／10.5(土)／10.19(土)／11.2(土)
各日 11時～14時～(1時間程度)

02. Workshop

音のワークショップ「仙境にひびく尺八の音」

中国から伝来し、日本で独自の進化を遂げた尺八。その演奏法をはじめ、譜面の読み方、二大流派である琴古流さんこりゅうと都山流とざんりゅうの違いなど、実演を交えてご紹介します。

日時／9.21(土) 15時～16時
会場／当館エントランスホール
講師／津上弘道氏(琴古流尺八奏者)
奥田愛山氏(都山流尺八奏者)

NEWS

お知らせ

○カフェ・アン・レーヴからのお知らせ

古くから繁栄の象徴として描かれ、さらに長生きする植物として知られる「ざくろ」のシロップを使った、「仙人ソーダ」をご用意いたしました。ぜひご賞味ください。

○次回展予告

生誕150年 吉澤儀道とその時代
2019.11.9(土)～12.22(日)

ACCESS

アクセスインフォメーション

【電車でお越しの方】

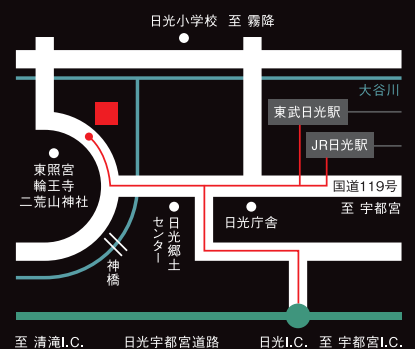
東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾、中禅寺・湯元、西参道(東照宮)方面行きバス5分
神橋停留所より徒歩3分

【お車でお越しの方】

日光宇都宮道路・日光インターから約2km

【駐車場について】

併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。



小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3
Tel. 0288-50-1200 www.khmoan.jp